

令和2年5月11日

日本応用藻類学会会員の皆様

新型コロナウイルスによる大変な時期、皆様お元気にお過ごしでしょうか。仕事の制限があって、思うように活動できていないかもしれないですね。その中で、教育関係者は遠隔授業やネット会議、あるいはカリキュラムの再編成等多くの試みを進め、学生の学業を最大限サポートするためにご尽力されていると思います。大事なことは感染しないよう気を付けることですが、山積みとなっている業務上の困難を一つ一つクリアしていきましょう。

このような現状を鑑み、幹事会では今年の9月に予定されていた日本応用藻類学会年会の開催について議論してきました。その結果、中止が妥当という判断になりました。今後のウイルス感染状況を予測できないこと、および東京に限らず会場の確保が全くできないことが主な理由です。年会は、皆様が顔を合わせて議論し交流を深めることができる年に一度の大事な機会です。それが中止となるのは本当に残念なことではありますが、どうかご理解下さい。なお、年会に付随する総会については、どのように実施するのかを今後幹事会にて早急に話し合っていきたいと思っております。まずは、年会の中止、ご理解願います。

年会での発表は皆様の研究業績の1つとなっていると思います。そのため、幹事会では編集委員会と力を合わせてそれに代わる業績確保について検討し、学会誌 **Algal Resources** の12月号を会員の皆様から日本語のミニ総説等を集める特集号にすることを決定しました。多くの会員の皆様にこれまでの研究の概要やトピック、仮説、あるいは今考えていること、など自由な内容で短報の形でまとめていただき、学会の守備範囲の広さや深さ、さらには将来性をアピールできるものにしたいというのが趣旨です。お届けいただいた原稿は原則全て掲載する予定ですので、学会発表に代わる業績として是非執筆の準備を始めていただければと思います。多くの方々からの投稿を期待しています。この新しい試みに関する詳しい案内は近日中に編集委員会からありますので、今少しお待ちください。

以上、年会中止と特集号発刊をお知らせいたしました。上記のコロナウイルス対策によって今年度新しく発足した幹事会あるいは編集委員会の正規の活動が大幅に遅れていますが、早期にこれを取り戻すことができるよう努力していきます。会員の皆様におかれましては、経験したことの無い厳しい状況が続いておりますが、今後とも学会の実りある発展にご協力いただけますよう、よろしく願いいたします。

三上 浩司

日本応用藻類学会 会長